

お子さんの急な病気・けがに困ったときは ～夜間・日曜・祝日などに、救急外来を受診するか迷ったら～

まずはお子さんの症状を確認する

目立つところに貼って
ご活用ください！

発熱(38度以上)のとき

- ☐ 発熱以外に重い症状がない
 - ☐ 水分や食事がとれている
 - ☐ 熱があっても夜は眠れる
 - ☐ 機嫌がよい
 - ☐ 遊ぶようになる
- ☐ 生後3カ月未満
 - ☐ 顔色が悪く、ぐったりしている
 - ☐ 激しく泣き、あやしても泣き止まない
 - ☐ 呼吸の様子がおかしい
 - ☐ 耳やのどを激しく痛がる
 - ☐ 水分を受け付けられない、おしっこの回数があきらかに減っている
 - ☐ 嘔吐や下痢を繰り返している

翌日かかりつけ医を受診

救急医療機関を受診

吐いたとき

- ☐ 吐いたあと、ケロツとしている
 - ☐ 水分がとれる
 - ☐ 下痢や熱がなく、元気である
- ☐ 吐いた物に血液や胆汁(緑色)がまざる
 - ☐ 何度も繰り返す
 - ☐ 脱水症状が見られる
 - ☐ 強い頭痛や腹痛を伴っている
 - ☐ 強く頭を打った後である

翌日かかりつけ医を受診

少し落ち着いてから、脱水にならないように少しずつ経口補水液などの水分を補給しましょう

救急医療機関を受診

けいれん(ひきつけ)をおこしたとき

まずはあわてず、平らなところに寝かせ、衣服を緩めてください。
けいれんの継続時間を計測し、けいれんがおさまったら熱を測ります。

- ☐ 熱に伴ってけいれんをおこしたことが過去にある
 - ☐ 今回は5分以内で止まった
 - ☐ 意識がいつもと同じ状態に戻っている
- ☐ 初めてのけいれん
 - ☐ けいれん時の体温が38.0度以下だった
 - ☐ けいれんに左右差がある
 - ☐ 半日に2回以上けいれんがおこった
 - ☐ 生後6カ月未満
- ☐ けいれんの後、呼んでも返事をしない
 - ☐ くちびるの色が紫色で、呼吸が弱い
 - ☐ 5分以上けいれんが続く

翌日かかりつけ医を受診

救急医療機関を受診

ひとつでもあてはまるときは直ちに救急車を呼ぶ

頭を打ったとき

- ☐ すぐに泣き出し、泣き止んだ後は元気になった
 - ☐ 意識がしっかりしている
- ☐ 吐く、または吐き気や気持ち悪さを訴える
 - ☐ 頭を打った後、しばらくの間意識がなかった(もしくは泣かなかった)
 - ☐ 顔色が悪い
 - ☐ ぼんやりして、ウトウトしている
- ☐ 意識がない
 - ☐ ぐったりしている
 - ☐ 目や鼻から出血がある
 - ☐ けいれんをおこした

翌日かかりつけ医を受診

頭を打ったときは、遅れて症状が出る場合があります
当日の入浴は控え、安静にして少なくとも1～2日は注意深く観察しましょう

救急医療機関を受診

ひとつでもあてはまるときは直ちに救急車を呼ぶ

上記以外の気になる症状が現れた場合は、公益社団法人日本小児科学会が作成しているホームページ「こどもの救急」もご参照ください。

こどもの救急 検索

相談する(小児救急電話相談)

☎ #8000 または ☎ 099(254)1186

看護師等から応急処置や医療機関の受診の必要性などのアドバイスが受けられます。

【相談対象者】 おおむね15歳未満の子どもの保護者等
【受付時間】 午後7時～翌朝8時(平日・土) 午前8時～翌朝8時(日・祝日・年末年始)

お困りの時は
お電話ください！



予防接種を受けましょう

予防接種はお子さんの体を病気から守り、感染症の流行を防ぎます。お子さんの体調が良いときに接種を受けておくと安心です。

問い合わせ先 県庁子ども家庭課 ☎ 099(286)2763

みんなで鹿児島県の救急医療を守りましょう ～大切な命を救うために～

本県では、医師不足が深刻な状況となっている一方で、救急出動件数が年々増加し、救急医療機関の医師などに大きな負担がかかっています。

休日・夜間における軽症患者の救急外来受診が増加すると、緊急に治療が必要な重症患者の処置が遅れるなど、適切な救急医療を受けられなくなるおそれがあります。

救急医療の適正利用のためにできること

日ごろから何でも相談できる
「かかりつけ医」をもちましょう

医療機関の受診はなるべく診療時間内に行いましょう

全国版救急受診アプリ(Q助)を活用しましょう
救急車を呼ぶべきか迷う場合は、消防庁が作成した重症度判定アプリ「Q助」を活用しましょう。

Q助 検索

出典:消防庁ホームページ



問い合わせ先 県庁保健医療福祉課 ☎ 099(286)2738 県庁消防保安課 ☎ 099(286)2259